

News Letter

ニュースレターくもと

Kumamoto

冬 Winter 2013

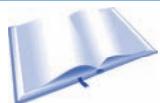
vol. 96

■ Publisher : Kumamoto International Foundation
 KCIC 4-18 Hanabata-cho, Chuo-ku, Kumamoto City, 860-0806
 Tel : 096-359-2121 e-mail : pj-info@kumamoto-if.or.jp
 URL : http : //www.kumamoto-if.or.jp/

■ 発行 : 一般財団法人 熊本市国際交流振興事業団
 〒860-0806 熊本市中央区花畑町4-18 熊本市国際交流会館
 Tel : 096-359-2121
 e-mail : pj-info@kumamoto-if.or.jp
 URL : http : //www.kumamoto-if.or.jp/



CONTENTS



新年のごあいさつ……………	1P	ちょっといわせてはいよ……………	5P
多文化共生月間について……………	2P	世界を知る……………	6P
多文化共生シンポジウム……………	3P	未来のために……………	7P
ボラキャン アレック・ディクソン賞 受賞報告……………	4P	ちょっと日本語/きふプロ……………	8P

2013年 新年のごあいさつ さらに多くの出会いがありますように

一般財団法人 熊本市国際交流振興事業団
 専務理事 重浦 睦治

新年あけましておめでとうございます。旧年中は熊本市国際交流振興事業団の活動に対し多大なるご理解とご協力を賜り厚くお礼を申し上げます。事業団は昨年4月、一般財団法人として新しく船出し、私は7月、その専務理事に就任、兼ねて、国際交流会館の館長職を務めることになりました。本日は、新米館長の目を通して事業団(会館)の活動の一端をお伝えしようと存じます。

およそ20年前 私の国際交流との出会いは、市職員として国際室に勤務した時で、1992年5月のハイデルベルク市との友好都市締結、1994年9月に落成する国際交流会館の基本構想策定に携わりました。当時は、海外友好姉妹都市交流が主流で、それも行政が前面に出るものであったと記憶しています。

時を経て今は 市民による地域に根ざした交流が日常となり、友好姉妹都市交流もより身近な内容となっています。たとえば、「食&文化を楽しもう」は、友好姉妹都市のある中国・アメリカ・ドイツ・韓国の料理をその国の人の指導で作る、食文化を学ぶもの。ドイツのことわざに「リーベ ゲートドゥルヒ デン マーゲン(愛は胃袋を通して)」があるそうです。手作りのおいしい料理は、きっとその国への愛と理解を芽生えさせるでしょう。

会館はまた日本文化に出合える場所でもあります。正面玄関

のお稽古で着物の着付けや礼儀作法を学んだり、茶道を体験しているのです。

熊本で暮らす上で必要な言葉を学びたい人には、「くらしのほんごくらぶ」がお勧めです。ボランティアに支えられ10年間続いており、水曜日と日曜日には1対1での熱のこもった学習が2階フロアで繰り広げられます。



会館は街中のオアシスとして一息入れながら、情報や新しい友達に気軽に会える広場でもあります。1階ロビーには

国内外の新聞、雑誌が備えられ、また、情報ボードは語学の講師・生徒募集、サークルへの勧誘などに利用できます。テーブルを囲んで様々な国の人が談笑する姿は国際交流が本当に身近になったと感じさせるものです。

そしてこれから 昨年10月、アジアのめまぐるしい経済成長の現実を知るために「アジア・ビジネス・フロンティア・セミナー」が熊本市により開催され、インドネシア、ラオス、ベトナム各大使館の公使による各国の現状発表、熊本の企業からの事例紹介、ジェトロやJICAなどの事業紹介が行われ、引き続き会場の参加者も交えた情報交換会が設けられました。このビジネス面での出会い創りは事業団に求められ取り組みを示唆するものでした。

さて、これらは活動のほんの一部です。皆様が御自身で会館の活用法と新たな出会いを見いだされることを願っております。



を入れて左手の生花に目をとめられたことがありますか?

池坊熊本銀杏支部の先生方と小原流の先生に一年を通して折々の季節を演出いただいているものです。私も時折、花を生けていらっしゃる先生にその日の思いや花材をお尋ねし、華道の世界に触れる機会を得ています。第二、第四土曜日の午後には熊本県日本舞踊協会との共催事業「日本文化体験子ども教室」があります。幼児から中学生までが、浴衣を着ての日本舞踊